

# な い ま の あ し り



錦

山田

勿来

川部

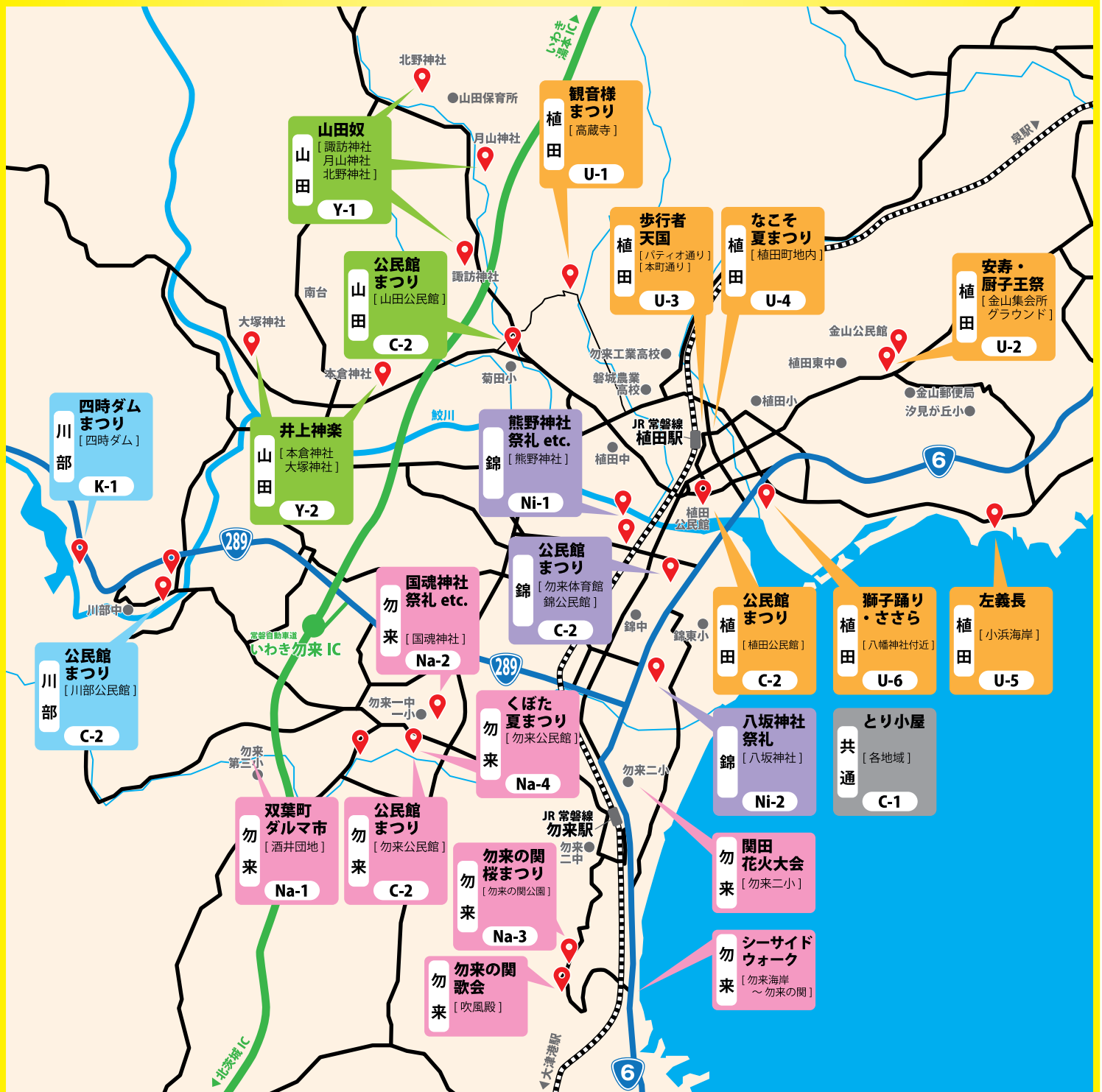
植田



# ご挨拶

まちづくりに参加していると、いろいろな場所で人手不足の話が耳に入ってきます。特に伝統的な祭りやイベントではそれが顕著なようです。今回私たちが作製した「なこそそのまつり・イベントカレンダー」と「小冊子」には勿来地区の主だった祭り、イベントが掲載されています。実行委員会内で各地区の区長さんに相談したところ小規模な神社の例祭を含めると驚くほどたくさんの祭りが挙がってきました。中にはこのままでは継続不可能なものも見受けられました。二年かけて情報収集、作製したカレンダー、小冊子を利用して来年度は実際にこれらの祭り、イベントに参加しようと計画しています。皆さんがお住まいの地域でも必ず近くでお祭り、イベントが開催されています。ちょっと足を運ぶことで地元の魅力の再発見、将来の可能性を見いだすことができるかもしれません。

## なこそそのまつり エリアマップ



# なこそそのまつり イベントカレンダー

上旬

中旬

下旬

1月	<b>熊野神社 歳旦祭</b> <small>錦 [熊野神社]</small> <b>Ni-1</b>	<b>とり小屋</b> <small>共通 [各地域]</small> <b>C-1</b>	<b>双葉町 ダルマ市</b> <small>勿来 [酒井団地]</small> <b>Na-1</b>	<b>観音様 まつり</b> <small>植田 [高蔵寺]</small> <b>U-1</b>				
2月	<b>節分 追儺祭</b> <small>勿来 [国魂神社]</small> <b>Na-2</b>		<b>熊野神社 建国祭</b> <small>錦 [熊野神社]</small> <b>Ni-1</b>		<b>公民館 まつり</b> <small>植田 [植田公民館]</small> <b>C-2</b>			
3月							<b>勿来の関 桜まつり</b> <small>勿来 [勿来の関公園]</small> <b>Na-3</b>	
4月	<b>山田奴</b> <small>山田 [諏訪神社 月山神社 北野神社]</small> <b>Y-1</b>	<b>井上神楽</b> <small>山田 [本倉神社 大塚神社]</small> <b>Y-2</b>	<b>勿来の関 歌会</b> <small>勿来 [吹風殿]</small> <b>Na-3</b>	<b>勿来の関 桜まつり</b> <small>勿来 [勿来の関公園]</small> <b>Na-3</b>				
5月	<b>勿来の関 桜まつり</b> <small>勿来 [勿来の関公園]</small> <b>Na-3</b>	<b>安寿・厨子王祭</b> <small>植田 [金山集会所 グラウンド]</small> <b>U-2</b>	<b>歩行者 天国</b> <small>植田 [本町通り]</small> <b>U-3</b>					
6月								
7月				<b>熊野神社 祭礼</b> <small>錦 [熊野神社]</small> <b>Ni-1</b>	<b>なこそ 夏まつり</b> <small>植田 [植田商店街]</small> <b>U-4</b>	<b>四時ダム まつり</b> <small>川部 [四時ダム]</small> <b>K-1</b>	<b>八坂神社 祭礼</b> <small>錦 [八坂神社]</small> <b>Ni-2</b>	
8月	<b>鎮座 記念祭</b> <small>錦 [熊野神社]</small> <b>Ni-1</b>		<b>盆踊り</b> <small>各地域 [各地域]</small> <b>C-3</b>	<b>関田 花火大会</b> <small>勿来 [勿来二小]</small> <b>Na-4</b>	<b>くぼた 夏まつり</b> <small>勿来 [勿来公民館]</small> <b>Na-4</b>	<b>左義長</b> <small>植田 [小浜海岸]</small> <b>U-5</b>		
9月			<b>獅子踊り・ささら</b> <small>植田 [八幡神社付近]</small> <b>U-6</b>					
10月	<b>国魂神社 大祭</b> <small>勿来 [国魂神社]</small> <b>Na-2</b>	<b>歩行者 天国</b> <small>植田 [パティオ通り]</small> <b>U-3</b>			<b>シーサイド・ウォーク</b> <small>勿来 [勿来海水 ~ 勿来の関]</small> <b>Na-2</b>	<b>公民館 まつり</b> <small>勿来 [勿来公民館]</small> <b>C-2</b>		
11月	<b>公民館 まつり</b> <small>川部 [川部公民館]</small> <b>C-2</b>				<b>新穀 感謝祭</b> <small>錦 [熊野神社]</small> <b>Ni-1</b>	<b>公民館 まつり</b> <small>錦 [勿来体育館 錦公民館]</small> <b>C-2</b>		
12月	<b>公民館 まつり</b> <small>山田 [山田公民館]</small> <b>C-2</b>							

# 御宝殿熊野神社の祭礼

開催時期

7月第3月曜日(海の日)

会場

熊野神社



熊野神社は鮫川右岸、錦町御宝殿地内に所在します。

かつて祭礼日は旧暦の6月15日に行われていましたが、明治34年(1901)に県社になった頃、旧暦から新暦に実施日が改められ、8月1日に定められました。

例祭は7月31日から始まります。天皇の御遣いである勅使役(お勅使様。7歳未満の小児)が介添役などに付き添われて飾り馬に乗って、須賀海岸で禊をした後、神社でお籠りをします。

翌8月1日は本祭りでは、午後3時前後から、小学生が地元の楽人による笛と太鼓を織り混ぜた雅楽調のお囃子に乗せて、五穀豊穡や子孫繁栄を祈願しながら、社殿前で稚児田楽の舞を奉納します。8人の童子のうち2人は浴衣、社紋の入った羽織、烏帽子をまとい、露払いの役で兎と烏の鉾をそれぞれ持って踊ります。一方6人は露払いの格好で、三つ折り枝笠を被ってピンザサラを鳴らしながら踊ります。ピンザサラはヒノキの細板を麻紐で綴った古代楽器で、ザラッ、ザラッと鳴ることから、ザラッコとも呼ばれています。この田植え踊り・「御宝殿熊野神社の稚児田楽・風流」は昭和51年(1976)3月、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

続いて、境内の檜の上で鷲の舞や竜の舞、鹿の舞、獅子の舞が披露されます。次いで、飾り馬に乗った勅使が参道を行きます。馬上の勅使には、烏帽子に束帯の姿で地域の稚児が当てられ、神のお降りになったしるしとして馬上で眠れば無事祭事が終わります。その後すぐに、参道を神輿の渡御が行われ、早馬疾走で祭りは終了します。





7年に一度、大祭が行われ、神輿が田人町黒田に所在する御齋所山の奥宮から下りて、鮫川河口に広がる須賀海岸で、里宮の神輿とともに、浜下り（「浜降り」の表現もあるが、文化財保護の観点で「浜下り」を使用しているため、これに従いました）の神事を行いました。この大祭は昭和17年（1942）、昭和42年（1967）、平成25年（2013）と、断続的に行われています。

近年、祭りの実施日が休祝日へ移行するなか、熊野神社も、平成25年には一旦8月第1週の土、日曜日へ、さらに平成28年（2016）からは7月の「海の日」を本祭り、その前日を宵祭として遷されました。

このほか、元旦の「歳旦祭」、8月1日の「鎮座記念祭」、11月23日の「新穀感謝祭」が行われています。

祭礼は、時代の変遷とともに変化し、昔に比べ形態的に簡素化されたとはいえ、かつて面影を残し、地域の人々の手によって連綿と続けられています。

## お問合せ

### 熊野神社

TEL：0246-62-2207

住所：〒974-8232 福島県いわき市錦町御宝殿 81



## 八坂神社の祭礼

開催時期 7月30日, 31日

会場 八坂神社



八坂神社は安良町の南端、字宮前に位置し、大同元年(806)に勧請されたと伝えられています。

明治時代から昭和時代前期まで村社として、県社である熊野神社で行われる祭礼日(旧暦6月15日)の露払いをするように旧暦の6月14日に祭礼が行われ、その前日には宵祭がにぎやかに行われました。(後に7月31日に遷される)

祭礼を仕切る地区として、大字中田の〈1〉北宿・鷺内・須賀、〈2〉南宿・中宿、〈3〉馬場・蛭田、〈4〉上中田、釈迦堂の四つに分けられ、順繰りに当番制で行われ、各地域を巡った後に錦海岸に浜下りしました。この間7年に1度、大祭が行われ、長持、山車などが勢ぞろいして街は祭り一色になったといえます。

かつては大字中田一円を巡りましたが、現在は地域の一部を渡御しています。

会場



福島県いわき市錦町宮ノ前

お問い合わせ

八坂神社住所：福島県いわき市錦町宮ノ前



Y-1

## 山田奴

開催時期 4月8日前後の日曜日  
[6年ごと開催/次回:令和2年]

会場 諏訪神社/月山神社/北野神社



山田奴は文化11年(1814)4月8日に下山田・諏訪、上山田・北野の両神社に、無病息災、五穀豊穰などを祈願して奉納したのが始まりとされ、大名行列の形態を模しています。

例大祭は6年ごとに行われ、「浜下り」と大きく関わって、岩間海岸まで下っていました。しかし、昭和33年(1958)4月を最後に、以後例大祭は行われなくなりました。

その後、区長会や公民館などの努力により昭和59年(1984)4月に例大祭が復活し、この年は岩間海岸までの浜下りも実施されました。浜下りはこの年だけの実施となりましたが、「勿来まつり」や「いわきの観光と物産展」への参加など積極的に地域行事と関わりながら、現在は6年ごとに、4月8日前後の日曜日に行われています。

奴行列は北野、諏訪、月山神社(下山田)の各神社からそれぞれに出発し、途中で合流。掛け声とともに各役割は合いの声で応え、ゆっくり、しかし確実に所作を進めます。ほかにも化粧や衣装で女装した男性の氏子が「しっちょいなー」などと歌う山田長持唄と踊りを披露、なぎなたを手にした子どもたちも参列して演舞を披露します。

## お問合せ

## 山田奴保存会

TEL: 0246-63-8224

住所: 福島県いわき市山田町下関場

## 会場



## 井上神楽

開催時期 現在は開催されておられません

会場 本倉神社 / 大塚神社



井上神楽は江戸時代中期に始まり、井上地区の守護神である本倉神社で7年に1度、4月8日に開催される祭礼に奉納してきたほか、地域の祝い事で舞が披露されました。

実施の主体は青年会でしたが、大東亜戦争（戦後、太平洋戦争）の激化とともに伝承されなくなり、戦後も途絶えたままでした。上山田下婦人会が山田長持唄の復活に乗り出したのに触発されて、地元民が復活をめざし、昭和47年（1972）に復活しました。

井上地区では単に「神楽」と呼ばれているが、井上神楽は獅子神楽の流れを汲むもので、その後結成された「井上神楽保存会」によって受け継がれました。獅子頭はケヤキで作られたもので、ユーモラスな舞が特徴で、青年が中心となって踊ります。

井上神楽に光が当てられたのは、平成6年（1994）3月、市の無形民俗文化財に指定されてからでした。市内5か所に伝わっていたという同系の神楽のうち、井上神楽はほぼ原形を残している点が指定の理由でした。

「長獅子」と「神楽七芸」のなかの二つの演目が、毎年4月8日の本倉神社祭礼時に演じられていました。

## 会場





# 双葉町ダルマ市

開催時期 1月中旬の土日

会場 勿来酒井団地



双葉町ダルマ市は、200数十年の歴史があるといわれていますが、いつから始まったのかは正確にはわかりません。ダルマ市の名前が出てくる記録は、凡そ100年前ですが、恐らく江戸時代に始まった新年の市でダルマが販売されるようになり、いつしかダルマ市と呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

ダルマ市は、かつては旧正月の13日に行われていましたが、近年になって1月の第2土曜日、日曜日の二日にわたって行われるようになりました。開催場所は、長塚地区の町道を中心に行われていましたが、ここは江戸時代の浜街道の長塚宿が所在したところにあたります。

町道の両側にはダルマや熊手など縁起物を販売する店、生活雑貨や農具を販売する店のほか、加工食品、ファストフードなどを販売する屋台が出店して、町内外から訪れる人々で賑わっていました。昭和時代中期頃には、久之浜ダルマ、富岡ダルマ、三春ダルマなどが販売されていたようですが、平成時代頃からはJAふたば婦人部が制作する双葉ダルマや白河ダルマが中心に販売されるようになりました。

昭和60年代頃からは、町道で南北に分かれ「巨大ダルマ引き合戦」（綱引き）が行われるようになりました。北が勝つと豊年満作、南が勝つと商売繁盛というように、その年の経済動向を占います。

二日目には初発神社で奉納神楽大会が催され、町内で活動する約10団体の神楽が競演して新春を寿ぎました。また、双葉町体育館では、町内小中学校の児童生徒や一般町民の作品展が開催されました。昭和50年頃までは、第2体育館において剣道大会、柔剣道大会も開催されていました。

震災後は、避難先で町民有志の会「夢ふたば人」のメンバーにより復活し、平成24年にいわき市南台応急仮設住宅で、31年には勿来町酒井の復興公営住宅で行われ伝統を受け継いでいます。

## お問い合わせ

夢ふたば人事務局

TEL：090-2976-8692

勿来酒井団地住所：

福島県いわき市勿来町酒井青柳14-4

## 会場



福島県いわき市勿来町酒井青柳14-4



# 国魂神社祭礼

開催時期 節分追儺祭：2月3日の直前の日曜日  
例祭（ドブロク祭り）：10月（スポーツの日）

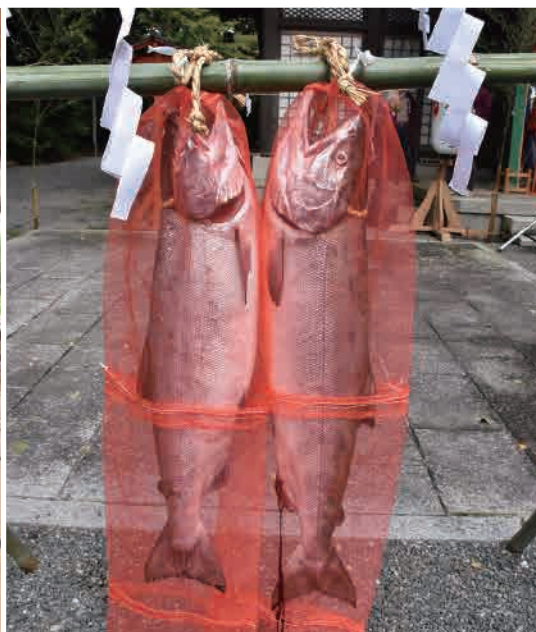
会場 国魂神社



国魂神社は勿来町窪田馬場に所在しており、開祖は大同元年（806）、出雲大社から勧請されたものと伝えられています。

その後、戦国時代初めには窪田家が窪田地内に居を構え、支配地窪田郷の総鎮守社として国魂大明神を敬り、大永元年（1521）には同社に梵鐘（昭和57年3月に市有形文化財〔工芸品〕に指定）を寄進しています。（窪田家は戦国時代末期に岩城家の支配下に移行）

節分に当たる「節分追儺祭」は2月3日前後の日曜日に行われます。宮司が本殿で神事を行い、厄を払った後、3本の矢を高々と放ちます。その後、鐘楼前の特設ステージでは氏子や地域の役員、年男などが袷姿で縁起物の豆のほか福銭や菓子などがまかれます。





国魂神社の例祭は毎年10月の「体育の日」(かつては10月19日)に行われます。

まず本殿で巫女姿の小学校女兒による「浦安の舞」を披露。その後、神社総代や役員、稚児行列を先頭に神輿が窪田市街を渡御します。さらに、神田で収獲したコメを使ったドブロクの粕と鮭の身を地区役員で捕り合う「粕搗み神事」を奉納します。戦国時代の窪田藩時代から続けられていたことから秋の祭礼を別称「ドブロク祭り」とも呼んでいます。

このほか、長持ち奉納、剣道大会、福引抽選会など多彩な催しも行われ、祭礼日は1日中、大勢の地域住民でにぎわいます。

### 会場



いわき市勿来町窪田馬場 72

### お問合せ

#### 国魂神社

TEL : 0246 - 65 - 2384

ウェブサイト : <http://www.kunitamajinja.com>

住所 : 福島県いわき市勿来町窪田馬場 72



# 勿来の関桜まつり

開催時期

3月下旬～5月上旬

会場

勿来の関公園



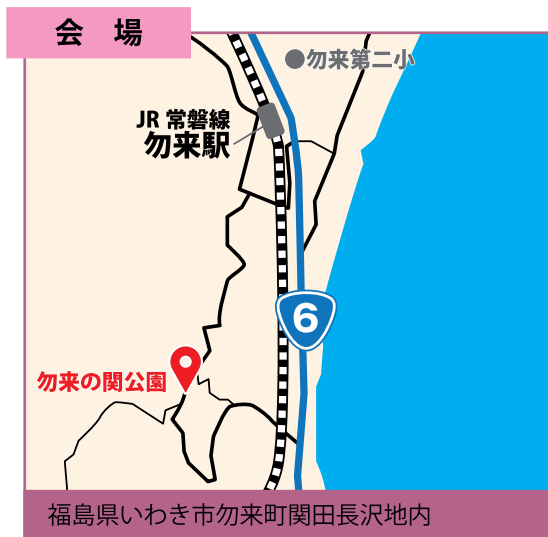
8世紀から9世紀まで、常陸国境の関として機能した菊多関（場所は明確でない）は、江戸時代、内藤家が所領した磐城平藩の飛び地であった関田村地内の風光明媚な地にサクラを植樹して修景するとともに、「来る勿れ」という一般用語が固有の関名である「勿来関」に名称を変えて以降、文学の世界へシフトして歴史の舞台に登場するようになりました。

地元俳人が建立する源義家が詠んだ「吹く風を 勿来の関と思へとも 道もせにち（散）る 山桜かな」の碑を建立した江戸時代末期からは、関とサクラの組み合わせは、後年における勿来関（この場合「の」は入らない）のイメージを決定づけるようになりました。

さらに、明治時代には地区民がサクラを植樹。さらに、大正14年（1925）4月には、桜の植樹を記念して田中智學氏により「勿来桜植記念碑」の板碑が建てられました。

昭和26年（1951）3月、「勿来の関公園」、菊多浦などが「勿来県立自然公園」に指定されると、官民を挙げた名所づくりが着手。断続的にソメイヨシノが植樹されました。

起伏に富んだ勿来の関公園では、毎年3月下旬から4月上旬にかけて、サクラがマツとのコントラストや太平洋の青さと相まって、美しい景観を見せてくれます。



## お問合せ

勿来駅前青年会

TEL : 090 - 2364 - 3775



# くぼた夏まつり

開催時期 8月15日

会場 勿来公民館 駐車場



窪田は江戸時代には城下町、陣屋町としてにぎわい、明治時代以降も近隣に進出した大手の大日本炭礦勿来礦や川部村の小炭鉱などの消費地として、商店が並び繁栄しましたが、幹線道路から外れ、かつてのにぎわいが薄れつつありました。

このため、商店街に活気を取り戻そうと、地元有志が実行委員会を立ち上げ、平成15年(2003)から「くぼた夏まつり」を開始しました。初回は主要地方道いわき一日立線約400mを通行止めにして行われましたが、う回ルートが少ないことから、勿来公民館駐車場などに変更して行われ、現在に至っています。

毎年開かれる8月15日の夏まつりでは、和太鼓の演奏やバンド演奏、食べ物・物産の販売、金魚すくいなどが行われ、夜には打ち上げ花火が夜空で大輪の花を咲かせます。

## 会場



福島県いわき市勿来町四沢小島 11-1

## お問合せ

くぼた夏まつり実行委員会

TEL: 0246-64-7245(勿来公民館内)

住所: 福島県いわき市勿来町四沢小島 11-1



K-1

# 四時ダムまつり

開催時期 7月の最終日曜日

会場 四時ダム



四時ダムは昭和59年(1984)3月、田人地区との境付近、川部町大沢に建設されました。洪水調節と工業用水・上水道用水を供給するためでした。

ダムの周囲6.6kmに及ぶ人工湖は「四時湖」と名づけられ、ダムの上手、四時湖の全景を展望できる「四時ダム公園」が設けられています。一帯は仏具山を中心とした「勿来県立自然公園」に指定されています。ダムからは海が眺望でき、全国でもダムと海の組み合わせはめずらしい個所となっています。

施設の開放については、まず平成5年(1993)に福島県が手始めに実施しました。平成6年(1994)からは地元住民、行政機関らが、国の「森と湖に親しむ旬間」に合わせて、毎年7月末の日曜日に「四時ダムまつり」を開催。以来地元団体や地元住民が中心となって、四時太鼓の演奏、フリーマーケット(随時開催)などのイベントなどを実施、県も施設の一般開放や夜間のライトアップを行って、訪れる人の目を楽しませています。

## 会場



福島県いわき市川部町大沢

## お問合せ

### 四時川流域ダムまつり実行委員会

TEL : 0246 - 64 - 7645

ウェブサイト : <http://shitoki-maturi2.sakura.ne.jp>

住所 : 福島県いわき市川部町川原 80 (川部公民館内)



U-1

## 高蔵寺・観音様まつり

開催時期

1月17日

会場

高蔵寺



高倉町鶴巻の高蔵寺は、大同2年(807)、徳一大師によって開山されたと伝えられます。

境内には、昭和56年(1981)に県重要文化財(建造物)に指定された三重塔が控え、その周辺はスギ林群や毎年5月に咲くシャガの花など、荘厳で自然豊かな環境にあります。

この一角にある高倉観音は、磐城三十三観音の6番目の札所に当たり、千手観音(正式には「千手千眼観世音菩薩」。観音菩薩の変化像の一種。人を救済する力が強い)が祀られています。

千手観音は多くの人々の願いや苦しみを聴くため、千の手と千の眼を持つ菩薩で、一心に祈願すれば、ことごとく願いを聞き届け、御利益、御加護を与えてくれる存在で、観音像は、寄木造りの座像で、像体には金箔、朱色、藍色などの鮮やかな色彩に施されています。以前、本尊は三重の塔堂内に安置されていましたが、昭和60年(1985)に再建された観音堂に遷されています。

毎年1月17日には、多くの善男善女が訪れ、ご祈祷を行います。

## お問合せ

## 高蔵寺

TEL : 0246-63-3030

eMail : info@kohzouji.com

ウェブサイト : <http://kohzouji.com>

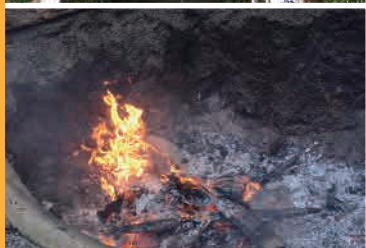
住所 : 福島県いわき市高倉町鶴巻 50



## 会場



福島県いわき市高倉町鶴巻 50



## 安寿と厨子王祭

開催時期 5月3日

会場 金山集会所 グラウンド



金山町には、明治44年(1911)に鏡丘由来記としてまとめた古文書を基にした安寿と厨子王あんじゅ すしおうにまつわる物語が伝えられています。

鏡丘由来記によると、発端は長和5年(1016)、小名浜住吉の住吉御所に住んでいた平政道が桜の名所に行った帰り、逆臣に現在の金山町の姥ヶ丘で殺害されたことから始まります。政道の子には万珠、千勝の姉弟がいましたが、母とともに住吉御所を出て、諸国をさまよっているうちに親子は離れ離れになってしまいました。姉は越前国で死亡しましたが、弟は京で養子となって治安3年(1023)、18歳になったとき、岩城政隆いわき まさたか(時代的に歴史上の人物としては登場しない)と改名しました。その後、逆臣討伐が許され、奥州で逆臣を討ち取り、長年の宿願を果たしました。政隆は父の霊を慰めるため、今の金山町南の丘に舞台を張って、家臣をねぎらったということです。

金山町では、この伝説を基に、昭和48年(1973)2月、「安寿と厨子王丸遺跡顕彰会」を発足させ、「安寿姫・厨子王の母子像」のブロンズ像を建立、さらに平成11年(1999)10月に「金山の昔を伝える会」を発足させました。平成14年(2002)からは「安寿と厨子王祭」が毎年5月に催され、安寿姫や厨子王丸に扮した地区民が神輿とともに地区内を練り歩き、母子の物語を通じた家族愛を語り継いでいます。

## お問合せ

## 金山自治会

TEL : 0246 - 63 - 2603

住所 : 福島県いわき市金山町朝日台

## 会場



福島県いわき市金山町朝日台





## 植田歩行者天国

開催時期 5月5日、10月スポーツの日

会場 5月：本町通り  
10月：うえだパティオ通り

植田町本町通りの「暮市」は、昭和30年代までいわき地方南部の最終を飾る正月準備の一大イベントでした。しかし、当時幹線道路は国道6号の本町通りしかなく、次第に急増する自動車交通を1日中、止めることは困難となっていました。このため、行政指導もあって、昭和35年(1960)を最後に長年の伝統は途絶えることになりました。

その後、昭和47年(1972)、植田町南町地内に国道6号常磐バイパスが<sup>みなみまち</sup>開通し、植田本町通りの慢性的な交通渋滞が解消されたことから、かつての「市」を買い物道路として新たな形で復活させようという動きが起こりました。これに全国規模で沸いていた“道路を歩行者に解放”という、「歩行者天国」ブームが後押ししました。こうして、歩行者天国は昭和48年(1973)9月に行われ、現在は毎年5月5日の「子供の日」に移行して続けられています。

また、「うえだパティオ通り」(←中央通り←台町通り)では、毎年10月の「体育の日」に歩行者天国が開催されています。

## 会場



## お問合せ

## うえだ商店会

TEL：0246-62-5539

住所：福島県いわき市植田町中央1丁目15-1



U-4

## なこそ夏まつり

開催時期 7月下旬の週末

会場 植田町地内



昭和57年(1982)、いわき市統一の創作踊り「いわきおどり」が練られた翌年から地区大会が行われ、勿来地区では「いわきおどり勿来大会」が開始されました。

一方、さめ川花火大会は大正時代末期から戦争期を除き、継続されてきました。しかし、勿来市の合併後に主催が決まらなかったこと、また費用対効果が疑問視されたことなどにより、昭和35年(1960)夏をもって長い間中断されていました。

この花火大会が時を経て、「なこそ鮫川花火大会」として復活し、鮫川河畔で行われたのが、平成8年(1996)7月のことでした。勿来青年会議所がよみがえらせたもので、40代以上の人は懐かしさを、40代以下の人には“素朴なイベント”を感じながら、それぞれが夏の夜のひとときを楽しむというコンセプトで再開されました。

翌年からは毎年7月下旬に「なこそ鮫川花火大会」として行われ、「いわき夏まつり」の一つに位置づけられるまでに成長していきます。平成17年(2005)からは「いわきおどり勿来大会」の催しと同夜、毎年7月下旬の週末に行われています。

会場



## お問合せ

なこそ夏まつり実行委員会

TEL : 0246 - 63 - 6521

住所 : 福島県いわき市佐糠町八反田 56 - 4



開催時期

8月15日前後

会場

小浜海岸



左義長は夏の夜空を照らし、お盆に帰ってきた霊を迷わず送り返す、8月16日夜の行事でした。太さ20～30cm、高さ13mの孟宗竹に藁を巻き付けた梵天（神に捧げる供物を表わす、あるいは神が降臨する場所を示す）を施し、砂浜に4、5m間隔で20本を一行に並べて火を点け、「ホーイ、ホイ」と声をかけながら霊を送ります。

この行事は平安時代に宮中など正月に行われていたもので、その後庶民に広まりました。江戸時代には小浜からの江戸向け廻米などが時化に遭い、遭難者が続出したことから、小浜ではその霊を慰めるとともに暗い海に帰る霊が迷わないように、盆送りとなりました。

行事は、昭和40年（1965）頃にいったん途絶えます。その後、昭和50年（1975）に復活するものの、昭和59年（1984）を最後に、ふたたび途絶えてしまいました。

平成23年（2011）3月に発生した東日本大震災で小浜集落は大きな被害を受けましたが、一致団結して震災から立ち上がろうとして、左義長の復活を決定。平成28年（2016）8月に小浜町の住民は岩間町の住民と協力して小浜海岸で開催し、鎮魂の祈りを捧げました。

会場



## 獅子踊り・ささら

開催時期

9月第2日曜日  
[5年に1度開催/次回:令和6年]

会場

八幡神社・佐糠町地内



佐糠町一丁目に所在する八幡神社では、5年に1度、9月15日に開催される例大祭時に獅子舞が奉納されています。獅子舞の発祥は江戸時代初期とされ、獅子舞保存会が奏でる笛に合わせて、現在は小学生が雄、中、雌獅子の三匹獅子に扮して五穀豊穡や無病息災などを祈願して舞を披露。舞う獅子には地名の佐糠をもじって「佐」、「奴」、「嘉」という文字が当てられています。

獅子舞は、かつて添野町や小浜町、山田町林崎など、勿来地区の各地区で行われていましたが、高齢化や後継者不足などで、その多くが姿を消してしまいました。

住宅化が進む佐糠町。都市化が進むと、地域の結束が解け、昔からの伝統が途絶えがちになりますが、新しさのなかで、祭りを通じ、高齢者や父母保護者、子どもたちの世代間交流が深まり、昔からの伝統行事が今も連綿と続けられています。

会場



福島県いわき市植田町八幡台2



C-1

## とり小屋

開催時期 1月7日前後

会場 各地域



とり小屋（鳥小屋、酉小屋の表記はあるが、いずれも確定的でないことから、ひらがなを使用）は、古くからいわき地方に伝わる、正月送りの伝統行事で毎年1月7日前後に行われます。当初は正月送りを準備する仮小屋でしたが、これがメインとなったものです。

昭和時代初期まで、地域の青少年を主体とした行事でしたが、風紀上や消防上から弊害が大きいとしてその存続が問われました。昭和20年代から30年代にかけては、教育上、とかく批判的の的となって、廃止が相次ぎました。しかし、昭和40年代以降から復活する機運が高まっています。中心となったのは、かつてとり小屋を経験した壮年層でした。判明している限りでは、昭和42年（1967）に関田で、昭和50年（1975）に沼部で、昭和55年（1980）に錦町馬場で、それぞれ復活しています。

近年では、元々の農業行事との関わりはすっかり影をひそめ、地域の団結や伝統行事の継承などが開催の理由となっています。勿来地区では、約15か所でとり小屋が行われています。

しかし、とり小屋は平成23年（2011）3月11日に発生した東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故による放射線を気にかける保護者の申し入れにより中止を余儀なくされるケースが増えました。とり小屋を建てる層の高齢化や後継者の流出、子どもの参加数減など、もともと維持困難な要因が内在していて、今回の震災がこの引き金となったとも考えることができます。

その一方で、平成28年（2016）1月、岩間海岸では岩間町のとり小屋が震災後5年ぶりに復活しました。かつては岩間友好会で開催されていましたが、復活のとり小屋は、小浜町と共同による開催となりました。

## お問合せ

各地区の区長に確認してください。



# 公民館まつり

## 会場

錦 : 錦公民館  
山田 : 山田公民館

勿来 : 勿来公民館  
川部 : 川部公民館

植田 : 植田公民館  
金山 : 金山公民館



公民館は、昭和21年(1946)7月に文部事務次官から都道府県知事に宛てた通牒(上級官庁が発する訓令)により建設が明確化されたのが始まりです。このときの建設目的は青年教育が主で、産業経済部や社会事業部、文化部など多様で、現在の公民館機能と大きく異なっていました。

戦争直後の混乱が収まると、法体系の整備が求められ、昭和24年(1949)6月に公布・施行された「社会教育法」に基づき、成人の「学習」機能を担う施設として、各市町村1館を目安に設置されました。

これら規定に基づいて公民館施設整備の国庫補助制度が設けられ、山田公民館と錦公民館が昭和23年(1948)、植田公民館が昭和24年(1949)、勿来公民館が昭和25年(1950)、川部公民館が昭和26年(1951)、金山公民館(2019)と整備されていきました。(これ以外の地域公民館は、集会所の位置づけ)

昭和30年代以降の高度経済成長は生活水準を高め、これに伴って文化活動や余暇活動、健康志向などが多様に広がり、公民館の重要性が認識されるようになり、公民館を拠点としたさまざまなサークル活動などが展開されるようになり、日頃の成果を発表する場を求めるようになりました。

このため、日頃公民館を利用している市民サークルや地域住民の成果を披露する場として「公民館まつり」が開催されるようになりました。開催日には模擬店や住民が作った食べ物などが提供され、大勢の市民が訪れます。

令和元年(2019)度では、勿来が56回目(10月開催)、川部が30回目(同11月)、錦が26回目(同11月)、山田が30回目(同12月)、植田が44回目(同2月)として、それぞれ開催されました。

## お問合せ

各公民館にお問合せください。 公民館の場所は1ページ目の地図をご確認ください。

錦公民館 TEL : 0246 - 62 - 2732

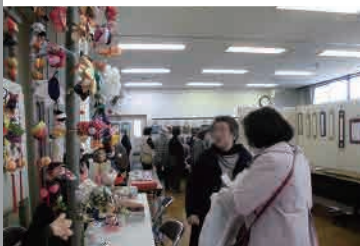
川部公民館 TEL : 0246 - 64 - 7645

山田公民館 TEL : 0246 - 62 - 2733

植田公民館 TEL : 0246 - 63 - 3467

勿来公民館 TEL : 0246 - 64 - 7245

金山公民館 TEL : 0246 - 63 - 2879



## 盆踊り

開催時期

お盆の時期

会場

なこそ内 各地域



盆踊りは、時衆（後の時宗）の開祖・一遍上人（鎌倉時代の僧）が民衆布教の手段として始めた踊り念仏が起源とされています。

以後、全国に広まり、地域性に関わりながら多様に変化していきました。「盆踊り」が全国的に共通している点は、①盆の時期、②夜間、③集団、④浴衣姿、⑤踊る—ことです。その多くは、檐から流れる笛太鼓、音頭取りの歌で、フリーな参加で輪になって踊るものです。帰ってきた祖先と一緒に踊る、あるいは供養のために踊るともいわれています。また、主催も区長会や青年会、企業などさまざまです。

社会の変容とともに、盆踊りの形態も変化していきます。たとえば錦町で行われる盆踊りは、まだ娯楽の少ない時代、呉羽グループ主催で毎年実施していました。グラウンドに大檐を立てて、檐の2階で20余りのヒョットコ面が笛太鼓の音に合わせて、数千人の踊りと一体化し、花火が間断なく天に轟くという盛況ぶりでした。しかし、昭和46年（1971）からはオール呉羽、錦友会（商店会）、錦公民館の共催として実施、さらに昭和49年（1974）の開催は第1回錦町納涼盆踊り大会として、地域の団体が参加した実行委員会形式で実施へ変更。以来、この形式で現在に継続され、錦小学校と錦中学校の校庭を会場に1年交代で実施されてきましたが、現在は錦小学校を会場として開催されています。

川部町で行われている盆踊りは、戦後まもなく公民館の呼びかけで川部地区青年団体連絡協議会が結成され、納涼盆踊大会を主催しました。ところが、明治時代から続く青年会とメンバーが重複しており、協議会活動が衰退していくなかで、昭和53年（1978）から小川上青年会が盆踊大会の主催を継承して、実施しています。

現在、盆の3日間やその前後、勿来地区の各地域では、思い思いの形式・内容で盆踊りが繰り広げられています。

## お問合せ

各地区の区長に確認してください。

## 会場

金山： 金山グラウンド

川部： 川部小学校

植田： 植田駅前

錦： 錦小学校

佐糠： 台公園

南台： 南台地内

中岡： 中岡第二公園

関田： 勿来第二小学校

江栗： 江栗第一公園

酒井： 復興公営住宅 県営勿来酒井団地



● 発行：いわき南部地区21世紀地域創生委員会 ● 発行責任者：関根 匡 ● 発行日：令和2年3月19日

● 文 責：おやけこういち、吉野高光

● 実行委員メンバー： 勿来ひと・まち未来会議  
勿来地区行政嘱託員区長連合会：長久保徳雄、武田征也、鷲一雄、蛭田結城、蛭田元起、  
尾留川光正、金成恒博、下山田完司  
いわき市社会福祉協議会勿来地区協議会：山野邊元則  
いわき商工会議所勿来支所：加藤雅彦、佐藤貴治  
芝浦工業大学 中村研究室：中村仁、土屋峻久、宇田川和希、別井保亮、細江健太、山下純平、林和樹

● 写真提供：いわき市、福島民報社、風見映像スタジオ、鈴木安喜、うえだ商店会、  
掘込康徳、安西久、赤津 慎太郎、源間剛玄、勿来ひと・まち未来会議

お問い合わせ

勿来ひと・まち未来会議

TEL：0246-77-1590 / eMail：hito-machi@coral.ocn.ne.jp

WEBSITE：http://nakoso-hito-machi.com

いわき市まち・未来創造支援事業補助金

こちらのウェブサイトから本冊子の  
PDF ファイルをダウンロードいただけます▶▶

